

あさひかわ農業協同組合

みどりの北海道米チャレンジ出品米
ご紹介について

NO

あさひかわ農業協同組合とは！？

RICE

北海道の中央部に位置する、旭川市と鷹栖町に位置し、旭川市農協、旭正農協、旭川市神居農協、北野農協(鷹栖町)が平成14年2月1日に合併し一つの農協として誕生しました。

NO

LIFE



組合員数	18,629人
正組合員	1,577人
準組合員	17,052人
出資金	20億円
職員数	201人
正職員	141人
準職員	36人
パート	24人

令和5年4月現在

JAあさひかわの農作物について

JAあさひかわが位置する上川盆地は、盆地特有の内陸型となっており、夏は暑く、冬は寒気が強く、寒暖差が大きい気象条件となっております。

また、大雪山系のふもとに位置しており、石狩川も有していることから、水質・水量共に豊かでおいしい米作りに適した条件で生産されております。

旭川は北海道の第2の都市です。都市部のイメージがありますが、多くの実りを日本中に届ける農業の盛んなまちです。北海道農業の一翼を担うべく、消費者に安全・安心な食をお届けするために生産者と役職員が心をひとつにして取り組んでいます。

出品米穀について

エントリーNo. 1

品種：ゆめぴりか

栽培：無農薬・無化学肥料
(有機JAS転換期間中
R7認証取得予定)

数量：2.88トン

エントリーNo. 2

品種：ゆめぴりか

栽培：特別栽培米

仕分：GAP仕分

数量：5.10トン



エントリー№ 1

無農薬米・無化学肥料米の紹介について

JAあさひかわは、全道に先駆けた 有機JAS米産地の確立を目指します

JAあさひかわ有機JAS/無農薬・無化学肥料米取扱い

単位：ト

年産	品種	栽培	数量
3年	ななつぼし	有機JAS	12.00
	ゆめぴりか	有機JAS	6.00
3年計			18.00
4年	ななつぼし	有機JAS	28.56
	ゆめぴりか	有機JAS	12.60
4年計			40.98
5年	ななつぼし	有機JAS	31.92
	ななつぼし	無農薬・無化学肥料	7.20
	ゆめぴりか	有機JAS	18.90
	ゆめぴりか	無農薬・無化学肥料	3.00
5年計			61.02

※5年産は収穫が確定していないため推定

当管内では、石坂氏を筆頭に有機JAS米の生産に取り組んでおり、令和4年産までは、1件の生産でしたが、環境負荷軽減の関心度が高まる昨今の世情を鑑み、より求められる米作りに取り組むべく令和5年産より新たに3件の生産者が無農薬・無化学肥料米の生産に取り組んでおり、将来的には新規の生産者も有機JAS認定を取得する予定です。

JAあさひかわ特裁米部会会長であり、有機JAS米生産の先駆者である石坂氏



無農薬米最大の敵…除草対策！

- ◆平成15年より有機JAS栽培（無農薬栽培）の取り組みを始めた。除草剤を含む農薬を一切使用しないため除草機による物理的除草作業を行っている。畑作用の除草機を基本に、機械メーカーの協力を得て、5年間試行錯誤を繰り返して現行のモデル（図1）にたどりついた。
- ◆その結集として平成28年新たなNEWモデル機（図2）を導入した。また、移植後に米ぬかを水田に散布し発酵させて、雑草をコントロールしている。
- ◆有機JASでは融雪剤に牛糞堆肥を用いて堆肥は愛別町畜産農家から入手するが、経費削減のためトラック60台～70台分を自走する。



図1



図2

除草対策

スピードはゆっくりですが、
農薬を使用できない分
慎重に除草を行います。
苗を傷つけないように
細心の注意を払います



目安の収量

一般

9～12俵/10a

JAS

7～9俵/10a

特裁

8～10俵/10a



取り組み例①

～詳しく聞きたい方は是非ブースへお越しください～



透排水性の改善と圃場の均平

- ◆ 土壌条件は圃場の多くが礫質褐色低地土で排水良好だが、グライ土もわずかにある。
- ◆ 透排水性の改善のために溝切り、秋起こしを毎年やっており、わらは秋すき込みを実施する。
- ◆ 圃場の均平化により、水管理が非常に楽になるため、毎年 8 ha程度にレーザーレベラー施工する。
- ◆ 新たに取得した水田等には必ず実施する。

11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう



取り組み例②

～詳しく聞きたい方は是非ブースへお越しください～



育苗及び移植作業

- ◆育苗ハウスは10棟あり、成苗ポットを活用。播種及び移植は双方10日間としている。
- ◆育苗ハウスでは、置床鎮圧を導入しており、乗用型・手押し型で鎮圧を行っている。
- ◆鎮圧後、シャトルで4時間灌水。
- ◆播種は1日1棟（約100M）、移植についても1日1棟5ha分の苗を移植する。
- ◆平成28年からは移植機にGPS自動操舵システムを導入。平成29年に追加投資。
- ◆苗の運搬には多量の苗を運搬するため、トラクターのバックレーキを利用した運搬ユニットを活用。



取り組み例③

～詳しく聞きたい方は是非ブースへお越しください～



施肥・防除

- ◆施肥量は、窒素成分で9kg/10a程度で、うち側条施肥を40%程度としている。
- ◆「ゆめぴりか」には幼穂形成期後のケイ酸追肥に「まいシリカ」を施用している。
- ◆特栽米は、「発酵ケイフン」や「マイフィッシュ」を施用している。
- ◆有機JAS栽培では認証された有機肥料を施用している。
- ◆病虫害防除については発生対応型防除を基本に、JAからの情報を参考に防除している。
- ◆有機JAS栽培は防除しない（無農薬栽培）ことや、特栽米は防除時期がずれるなど、防除が集中する圃場は20～30ha程度のため、ビークル2台を使用し、1.5日ほどでの的確に防除を行う。

11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう





有機JASの取り組み

有機JAS栽培 EMの活用

- ◆ EM1・EM2・EM7を組み合わせて使用している。
- ◆ EM活性液はEM1を3%、糖蜜を3%入れ、EM活性装置を使用し作成する。

【微生物資材（EM）の使用計画】

期間	実施月	実施作業	使用資材	
播種前	4月	種子の浸種	EM1号	
		種子の浸種	EM2号	
播種床並べ		EM1号		
育苗期		灌水	EM1号	
田植前		5月	灌水	EM1号
			灌水	EM1号
田植後	流し込み		EM1号	
除草機1回目	6月	流し込み	EM1号	
		散布	米ぬかペレット	
		除草機後流し込み	EM1号	
		除草機2回目	除草機後流し込み	EM1号
除草機後流し込み			EM7号	
除草機3回目		除草機後流し込み	EM1号	
	管理期間	7月	流し込み	EM1号
流し込み			EM7号	
8月		流し込み	EM1号	
		流し込み	EM7号	
収穫後	随時	散布	EM1号	

※ 散布後耕起を実施し、稲わらの腐食を促進する

有機農業を始めた3年間は収量が上がり、止めようかと考えた。

そんな時、知人から微生物活用技術の話聞き、微生物資材（EM）を使用して、もう一回試すつもりで作付を行って見たところ、想像以上の収量アップとなった。

そうして自然農法を続ける内に土壌や環境のことを考えるようになり、水田の様子も変わってきた。今後も田畑の生き物を大切に自然農法を続けていきたいと考えている。

使用する農機

- ・トラクター 51、76、104、113、117、150、160 7台
- ・マニアスプレッター(けん引式) 2台
- ・マニアスプレッター(自走式) 1台
- ・ストーンクラッシャー 1台
- ・レーザーレベラー 1台
- ・もみすり機 1台
- ・ブロードキャスター 3台
- ・色彩選別機 2台
- ・高速播種機 1台
- ・精米機有機米専用 1台
- ・精米機一般米専用 1台
- ・無洗米機 1台
- ・田植機8条 1台
- ・乗用除草機8条 2台
- ・ウイングモア 2台
- ・フォークリフト 2台
- ・オフセットシュレッター 1台
- ・ユニックトラック 1台
- ・軽トラック 3台
- ・ファームダンプ 1台
- ・自脱コンバイン 2台
- ・汎用コンバイン 1台
- ・パワーショベル 1台
- ・遠赤外線乾燥機 5台

エントリー№ 2

特別栽培米・GAP仕分米の紹介について

令和4年産 付加価値栽培の集荷量について

GAP認証作付面積について

品 種	JGAP	AGAP	合 計
ななつぼし	87.9ha	54.1ha	142.0ha
ゆめぴりか	85.3ha	104.4ha	189.7ha
きらら397	58.2ha	10.3ha	68.5ha

品 種	YES ! clean米	特別栽培米	有機JAS米	GAP認証
ななつぼし	28,830.5俵 (1,729.83t)		476.0俵 (28.56t)	2,023.0俵 (121.38t)
ゆめぴりか	34,369.0俵 (2,062.14t)	7,920.5俵 (475.23t)	210俵 (12.60t)	
きらら397				3,757.0俵 (225.42t)
吟 風	4,174.5俵 (250.47t)			
彗 星	2,148.0俵 (128.88t)			
きたしずく	1,346.5俵 (80.79t)			



特別栽培米基準について

JAあさひかわ 特別栽培米の基準

農薬使用回数：6回

(慣行対比 73%削減)

化学肥料使用量：4.5kg

(慣行対比 65%削減)

11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



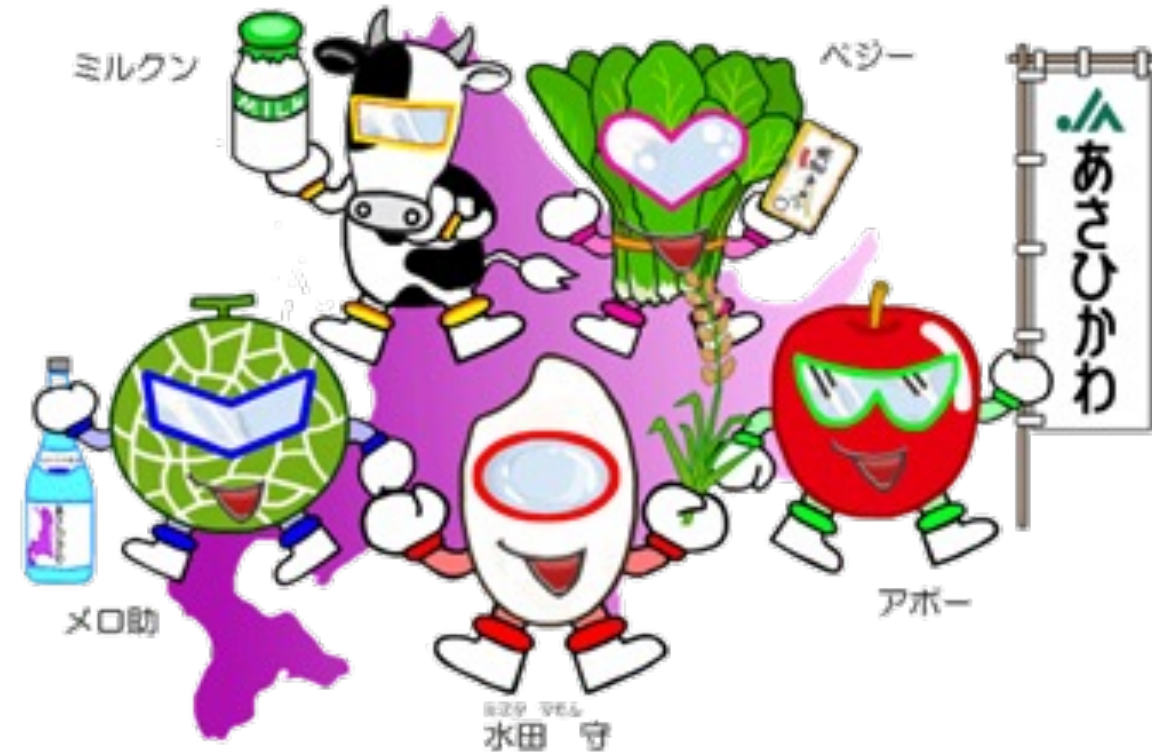
15 陸の豊かさ
を守ろう



特別栽培米の推奨事項

【栽培に関する奨励事項（主なポイント）】

- ① 土壌診断を実施し、堆肥や有機物を活用し活力ある土づくりを行う。
- ② 肥培管理は、部会で統一した肥料を使用。化学由来窒素成分最大4.5 kg/10aとする。
- ③ 防除薬剤は、部会で統一した薬剤を使用。成分回数6回以内を厳守する。
- ④ ケイ酸資材（ケイカル・テツケイカル等）を100 kg以上/10a投入する。
- ⑤ 幼穂形成期から7日後にケイ酸資材（まいシリカ・ゆめシリカ等）を20 kg以上/10a投入する。





特別栽培米部会について

JAあさひかわでは、特別栽培米部会という組織を立ち上げており、生産技術の研鑽、販売先との交流などより良いお米の生産に向けて日夜活動をしております。

部会構成員：29名

活動内容：指定販売先との産地・消費地交流
青空教室など生産技術の共有

JGAPの取り組み



農作業を行う上で必要と定める項目に沿って、各工程の実施、記録、点検及び評価を行う手法が農業生産工程管理(GAP)であり、これを第三者認証機関の審査により認証を受けています。

求められる農業の「あり方」と農業経営の持続的な発展を実現する手段としてJGAPに着目し、平成28年から取り組みを継続しています。



美味しさへの探求

**環境に配慮した米作りはもちろんのことやはりおいしくなければ意味がありません。
当産地のお米は美味しさへの探求にも力を入れています**

基本技術の励行

適期播種・移植。小まめな水管理。
収穫後の心土破碎や溝切り、秋起こしを実施し、肥沃な土壌の準備など低タンパク生産に向けた基本的且つ重要な技術を真面目に取り組んでいます。

証明された実績

令和3年産ゆめぴりかコンテストでは競合ひしめく米どころ上川の地区コンテストにて地区金賞を獲得しました。
また、過去5年間の低蛋白米の出荷実績で表彰される「ゆめぴりかの匠」については当産地で毎年複数名の生産者が匠の称号を獲得しています



JAあさひかわは「NO RICE NO LIFE」という
キャッチコピーのもと、
お米が全ての人と共にあるよう願っております。
そのためには、産地では消費者が求められる
お米の生産に心血を注いでいきたいと思えます。
当産地のお米を食べて少しでも多くの人に
笑顔になってもらうことが
生産サイドの一番の励みとなります。
是非、JAあさひかわの環境負荷軽減米と共に
未来を作っていきましょう。
ご清聴ありがとうございました。

